

戲王【si:oh】

附設高校演劇部・岡崎賢一郎 作

□キャスト

【東山南女子 1年B組】

1 青山 莉子	2 荒木 真由美	3 糸井 美優	4 井上 桃子	5 上田 葵	6 大沢 陽茉莉
7 太田 咲希	8 大槻 ひかり	9 奥村 美咲	10 加納 奈々	11 北野 杏奈	12 久保田 未来
13 小坂 日菜子	14 五島さくら	15 佐々木 佳奈	16 塩見 一花	17 清水 佳織里	18 瀬藤 舞
19 曾我 穂乃実	20 高見 志帆	21 立石 まりん	22 田中 七海	23 辻 詩織	24 中川 優里奈
25 南 友香	26 野々宮 雪乃	27 長谷川 愛美	28 深谷 優	29 藤原 幸子	30 堀 姫愛星
31 前田 寧々	32 俣野 真央	33 八木 真子	34 山本 爽	35 横山 美穂	36 吉田 華凛

瀬藤 舞

塩見 一花

大槻 ひかり

南 友香

上田 葵

藤原 幸子

横山 美穂

山口 聡子(担任)

瀬藤 凛(中3)

□上演にあたって

- ・台詞の中「／」で示されたところは、後ろの台詞によって断ち切られることを表す。
- ・台詞の中、「」で示された言葉は、マイクを通して語られる。
- ・ト書きの中、『』で示された言葉は、舞台スクリーンに投影される。

舞い続けよ、この浮き世。

ブザー音とともに暗転

開演を知らせるアナウンス

音楽「unified perspective(variation)」(Agraph)

緞帳UP

真つ暗な中、音響ブースで操作している女の子が見える。

3間四方の舞台。四隅には柱が立っている。

背後には松が描かれた大きな壁がある。

それは能舞台のようだ。

周囲に机・椅子

無造作に紙がばらまかれている。

一番後ろの席の女子高生(瀬藤舞)立ち上がる。

照明

舞、ゆっくりと橋がかりを通して、舞台上にあがる。

遅れて、上手側にいた女子高生(塩見一花)、舞台にあがる。

音楽高まって 暗転

舞 「だから、一緒にやろ。一緒に。」

『#2022年9月、ある日の放課後』

照明

周囲には紙を持った女子高生たちが座っている。

舞 もちろん、ためらう気持ちはよくわかる。でも、そんなやる前からびびっても、何のいいこともないな。って最近思ってた、うん。どうなるかわからんこと、わからんことなら、それ、不安に思っても仕方がないし、えいや！って覚悟決めてやるしかないやん、って思う。

舞、マイクを置く。

舞 そりゃさ、不安に思うだろうなって思う。でも、たぶんそれは、あれよ。シャンプー。シャンプーするのと一緒に。

舞 夜一人でお風呂入るやん。でさ、シャンプーしてて、で、泡々が目に入りそうになって、こうぎゅっと目をつぶってしまいうやん。

舞 で、そんなときに、なんか、目つぶってると後ろにさこう、このへん？なんか誰かおるような感じがして。怖くて怖くて仕方が無い。

舞 でも、髪洗い終わって、急いでシャワーの蛇口ひねって、泡々を流して、で、怖いけど、全然まだ怖いんやけど、えいやって目を開けると、そこには

間
舞、立ち上がる

舞 結局誰もおらん。おるはずなんてない。だって、お風呂場にいるのは、うちだけ……で、素っ裸な私は、何を怖がってたんやろ、って思う。

舞 不安ってつまりそんなもんで、目をつぶって怖いなって思っていると、ホントに怖くなるって、うん、そういうもん。えいやって目を開けると、泡々みたいにきれいさっぱり消えてなくなる、そういうもん。

舞 うちも頑張るけん。……大丈夫やけん。
一花 ……分かった。

舞、にっこり笑う。

舞 (マイクを持って)「ってかさ、カラオケボックスに来とんのに、全然歌わんやん。」

ここはカラオケボックスだったようだ。

一花 歌、下手だから。

舞 今は別に誰も聞いてないから。……いや、うちはしっかり聞いてるよ。そういう意味じゃなくて、
一花 ってか知らんし、歌。最近の。

舞 そうなん？えー(と手元のリモコンを見て)あいみよんとか、ヨルシカとか。

一花 全然しらん。そういう曲は、あんまり聞かん。
舞 じゃ、何聞くん？

一花 洋楽とか、昔の曲とか。
舞 意外。バリバリ女の子の曲歌ってそうなイメージやったけど。

一花 お父さんが昔の曲が好きで、その影響で私も。
舞 へえーそうなんやね。

一花 うん。ロックとかラップとか、そういうのも好き。
舞 あーでも、うちも聞くんかも。こんなのとか。

音楽「ノコロドル」(nobodyknows+)

照明

全体が薄暗くなり、舞台前方に文字が投影される。

『戯王【gi:oh】』

音楽高まる

照明

舞、踊る。

その周りを、高校生達、踊る。

カラオケボックスのような、キラキラとした照明

教室の喧噪

生徒たち(大槻ひかり・南友香・上田葵・藤原幸子・横山美穂)がいる。
教室後方の席には光が当たらない。

中央に舞。

舞 だから!!!

照明

『#夏休みが明けた 9月』

『#放課後の教室』

音楽OFF

みんな静かになる。

舞 つたく。みんな分かった?これでいくけんね、ウチら。

ひかり はい。

舞 えーでは、発表します。東南祭 一年B組の出し物は (ドラムロール)

ひ・舞 クラス演劇です

二人拍手。

周りも合わせて拍手する。

ひかり 超楽しみ!

舞 いろんな案が出たけど、やっぱりこれだよね、文化祭。

ひかり うん。私もこれしかなくて思っったもん、最初っから。

舞 だよねー 出し物するからにはさ、「楽しい」のがいいからね。イヤイヤやっても、なんかちょっと違うし／

せつかくだか

あ の

舞 (指名)はい、友香さん。

友香 楽しいのがいつてのはそうやけど、……演劇ってたのしい?

舞 楽しい楽しい。台本とか舞台とか考えて。(踊りながら)ダンスとかもいれて。

ひかり ダンス大好きー(踊りながら)ねえねえ、文化祭って他校の男子も来るんよね?

舞 来る。今年は二年ぶりに一般公開もあるって聞いてるし。

ひかり かつこいい男子くる?

舞 (うなずく)いっばい。キンプリの平野君が、いっばい。

ひかり (歓喜)

友香 平野君、いっばいはおらんやろ。

舞 ものたとえよ。察して察して。

ひかり ちなみに他のクラスは何するん?

舞 A組は喫茶店?で C組はヨーヨーすくいと射的とかなんとか。あとはわからん。

ひかり そっか。

美穂 あの、質問

舞 はい! あ、……えー

友香 横山さん。

舞 あー、(指名)はい横山さん。

美穂 みんなせないかんの?それ。

舞 ん?

美穂 演劇。みんなでるとか/私

舞 そりゃ、クラス演劇だからね。クラス、演劇。

美穂 ……(ため息)

友香 やるのはいいけどさ、台本とかどうするん。

舞 うちが書きますー!!

ひかり (拍手)

友香 ええー何するん?

舞 ふつーは友情ものとか戦争ものとかするらしいけど、こちらは、素人やけん、もっとこう、面白いオリジナルを
と考えると。

ひかり (うなずいている)

舞 コントみたいなのとか、ロミオとジュリエット、みたいな恋愛系とか。女子校だけど、男役とか作って「女子が考
える、もえもえキュンキュン告白ストーリー」。

ひかり やばーい。

舞 放課後の教室、二人きりとか、夏のビーチで二人、とか。

ひかりを前に。

舞 夏。海岸 白い砂浜 貝殻 波の音。並んで歩いている二人に降り注ぐ太陽。と、振り向く男。「愛してるよ、

ひかり ひかり」。

舞 うん私も大好き、舞太郎。(と抱きつく)

ひかり 的な。

舞 いい。もえもえキュンキュンする〜

友香 ごめん、妄想についていけん。

舞 たとえば、よ。なんかそんなのどうかなっていう。ダメ??

ひかり いい。超いい。最高。天才。美人。かわいい。超かわいい。

舞 馬鹿にしてるやろ。

ひかり してないしてない。舞太郎、大好き(かわいく)

舞 つてことで、分担表配りまーす。

ひかり、生徒にプリントを配る。

生徒たち、プリントに目を通す。

舞 キャストはまだ決めとらんけん、とりあえずスタッフだけ表にしました。

全員にお仕事あります!

美穂 全員……

舞 あの、「大道具」って?

舞 絵を描く。背景的な。でっかくペンキとかで。それ用の予算もあるみたいだし。まだイメージは出来てないけん、
ま、おいおい。

葵 「音響」?

舞 音楽考えて、流すみたい。これもイメージは、まだできとらん、ま、おいおい。

友香 おいおい。

美穂 あのさ、やっぱりこれ、やりたい人だけでやればいいんやない??もともと文化祭、そんな話やったんやし、そ
れこそ舞とひかりとで

舞 でも、音楽とか考えるのは上田さんがいいかなとか

美穂 なんて

舞 上田さん、バンドするんやろ、こんど。

葵 その予定ではあるけど。

舞 絵画選択の藤原さんは大道具、バンドしてる上田さんは音響、っていう具合に、それぞれの得意分野を生かし
つつ、みんなで、クラスみんなで楽しもうぜ!!っという、そんな企画。だけん、横山さんにもなんか、得意な
ことで頑張ってもらえれば、と。

横山 ……

友香 で、肝心の、役者は誰なん?

ひかり (手を挙げて)出ます!

舞 ひかりは出るよ。ってか、とりあえず、ひかりを中心にしようとは思ってるけん。でも他はまだ決めとらん。

友香 決まってるないんだ。

舞 台本できてから、と思つて。イメージは、まだできとらん／
ひかり (舞)出るやろ、舞太郎。
舞 うち???
ひかり うん。 作、主演 瀬藤舞太郎。
舞 主演はひかりよ。
ひかり じゃあ、その相手役とか。
舞 いや、うちはほら、監督だから。台本書いて、みんなの演技考える、監督。瀬藤ジャパン的な。メモ取ったりして。
美穂 ……あのさ、ちよっとマジで

と、そこへ、担任(山口聡子)。盛大な拍手。

ひかり ん?

山口 いいと思います。すっごいいいと思うよ、瀬藤さん。(拍手)先生、応援します!!

舞 あ、はい。

ひかり 聡子先生おつたん。

山口 おつたよ。ってか普通に最初っからいたよ。(と隅を指す)

美穂 全然気づかんかった。

舞 先生も出てくれますよね。

山口 当たり前じゃない。そういうのは、得意です。

ひかり おおーいいねえ。

舞 そういっう?

山口 恋愛系。

舞 彼氏いなくないですか?、聡子先生。この10年いないとかなんとか

山口 だから、よ。もうね、恋愛系のドラマとか映画とか、めっちゃ見てるから。

舞 あ、はい。

山口 ということで先生協力する。もうね、こういうの待ってたの。いいじゃん、みんなでクラス演劇。団結。友情。東

山南女子 1年B組 クラス演劇 頑張っていきましょう!

舞 ということで、うちのクラス 一年B組の、こんどの文化祭・東南祭の出し物は「クラス演劇」。楽しみ過ぎて、もうね、鼻血でそう。こんなワクワク、何年ぶりやろって感じ。

教室から出て行く人たち。

一花、ふと立ち止まり振り返る

一花 出て行く。

美穂、教室から出て行くこうとするが、戻ってくる。

美穂 あのさ

舞 おおー まだおつたん、えーっ 横山さん。

美穂 うちは、あんまりたくない。

舞 え?

美穂 クラス演劇。こんな風に、誰かに押しつけられて?とか、みんながやってるから、とか、そういうの、うちは無理。

舞 ……あーうん。でもさーえー一応、多数決で決めたことで

美穂 それに恥ずかしくない?演劇。人前でって。

舞 そう?楽しいよ、演じるって。

美穂 ……

舞 まあ決まったことやけん。お願いね。

美穂 ……

美穂、無言で立ち去る。

舞 って風に、なかなかみんな協力はしてくれん。でも、まーそんなもんやろ、最初は。徐々に徐々にみんな分かって

くれるはず。それまでは頑張らんといかん、って思ってる。ウチが言い出したことやけん。

一花、舞台上に上る。

一花 大変だね。

舞 ……ま、うん。

一花 他の人は。

舞 なんかに忙しい！とかで。なかなか。

一花 そっか。

舞 そ、自分が言い出したことだから、いいんだけどね。でも、ほら、一人では演劇できんし。だけん、塩見さんが引き受けてくれたのは、うれしかったよ、マジで。

一花 特になんもしてないから、私。それに、演劇はちょっと興味あって。

舞 ええーそうなんだ

一花 うん。だけん、演劇やって、クラスみんなで、盛り上がれば、いいなって思ってる。

舞 ありがと。

照明。

『#カラオケボックス』

一花 でもさ、私は自信ないよ。裏方とかならいいけど、役者とかで、人前で話すのとかは、ちょっと苦手というか、全く苦手というか。

舞 そ？

一花 うん。だけん、役者は、

舞 いやいやいや、それは困る。

一花 なんて。

舞 一緒にしたいから、塩見さんと。

間

舞 ということで、ここは塩見さん、ひかり／＼が

一花 なんて？………何で私？

舞 ……それは、………なんてだろ。あんまり理由とかないかも。

一花 何それ。

舞 ま、ね。でも、なんか、うん。一緒にやりたいなって思ってたさ。ふと。

一花 変なの。

舞 「だから、一緒にやろ。一緒に。」うちも頑張るけん。

一花 ………分かった。

マイクを握る舞。 舞、にっこり笑う。

舞 (マイクを持って)「ってかさ、カラオケボックスに来とんのに、全然歌わんやん。」

一花 歌、下手だから。

舞 今は別に誰も聞いてないから。……いや、うちはしっかり聞いてるよ。そういう意味じゃなくて、

一花 つか知らんし、歌。最近の。

舞 そうなん？えー(と手元のリモコンを見て)あいみよんとか、ヨルシカとか。

一花 全然しらん。そういう曲は、あんまり聞かん。

舞 じゃ、何聞くん？

一花 洋楽とか、昔の曲とか。

舞 意外。バリバリ女の子の曲歌ってそうないイメージやったけど。

一花 お父さんが昔の曲が好きで。で、その影響で私も。

舞 へえーそうなんやね。

一花 うん。ロックとかラップとか、そういうのも好き。

舞 あーでも、うちも聞かかも。

タンバリンを持ったひかりが部屋に入ってくる。

ひかり ただいまトイレから戻ってきました!! (敬礼) あー歌ってない。

舞 あ、いや、今選んで。うん。「歌ってたよ」

ひかり うそー

舞 「ホントホント」

ひかり あ、そ。(一花を見て)歌わんの?塩見さん。

一花 ああ、うん。歌わないことはないんだけど。

舞 なんにしようかなーって、今二人で。

ひかり ふーん。

舞 歌っていいよ、ひかり。先に。

ひかり はーい。「でもさ、うちばかり歌ってない」?

舞 うまいけん、ひかりが。

ひかり なんことないよー。ええーじゃあ、歌いまーす。(こほん)、

ひかり、立ち上がりマイクを持つ。

ひかり 「キケンナアソビ」

音楽「キケンナアソビ」(クリープハイプ)

照明

一花、去る。

音楽は途中でDJプレイへと切り替わる
冒頭が繰り返し流れる

柱越しに話す二人

『#舞とひかり』

『ひかり あのさ』

『舞 何』

『ひかり あの子、塩見さん』

『舞 うん。一花ちゃん。』

『ひかり 一緒にするの? ……演劇。』

『ひかり ……いや、いいんだけど、別に。』

ひかり、去る。

舞 だったっけ？
凍 急に入れない人が出て、なんか代打で。だからよろしく、と。
舞 分かった。
凍 なら

と出て行く。途中でなんか踏んてる。
舞、ため息

舞 ……でも、ほんとむずかし、これ……………付き合っていてなんなんやろ。告白？

スマホを取り出し

舞 んー

首をかしげ、スマホに文字を入力。

『#もてる #JK』『#告白 #きゅんきゅん』

舞、立ち上がる

舞 「好きです、付き合ってください！……………いや、違うな、……………」卵の黄身より君が好きだ。僕のオムライスに／

などなど舞、告白の練習をしている。

一花 やってくる。

一花 舞太郎君 どうしたの、こんな 秋の海岸に 急に呼び出して。

照明

舞太郎 いや、うん、ちょっと、話があつて。

一花 話？

舞太郎 実は、実は僕は

一花 ごめんなさい

舞太郎 はや！ いや、まだ何も言ってないから。

一花 舞太郎くんの気持ちは嬉しい。私も、ずっと昔から舞太郎君のこと、……………恥ずかしい。

舞太郎 じゃあじゃあ僕と！

一花 でも、私は 舞太郎君とは付き合えないの、。

舞太郎 (ミュージカル風) どうして、僕は君が好きなのに、

一花 (ミュージカル風) 私もあなたが好き、

舞太郎 (ミ) じゃあじゃあ、僕と一緒に 二人の人生を、

一花 (ミ) それは無理

舞太郎 (ミ) なぜ無理なの

一花 (ミ) 結ばれない運命 実は 実は、

音楽「瞳をとじて」(平井堅)

いちか わたしに、もう夏はこない。

舞太郎 ……………え？

いちか 私、もう、来年の夏、こうして、舞太郎君とは一緒にいられないんだ、たぶん。

舞太郎 いやいや、どういふことー？

いちか 舞太郎君とは、一緒に、こんな風に海を見ることできないんだ、わたし。

舞太郎 何言ってるんだよ、いちか。どういふことだよ、教えてくれよ。

いちか 舞太郎君、落ちて聞いて聞いて。

舞太郎 落ち着いていられるかよ。どういことだよ、なあ、いちか!!
いちか わたし、じつは、……………

音楽 良い感じに盛り上がる。

いちか ……………私、じつは……………病気なの
舞太郎 え？病気
いちか うん。もう、決して治らない病気。
舞太郎 嘘だろ。
いちか ……………

舞太郎 嘘だと言ってくれ！なあ、いちか!!
いちか ホントのこと。私病気なの。先天的な病気で、あと半年後には、こんな風に歩くことも、話すことも。だから、もう、私は、私は、うう!!!(倒れる)
舞太郎 え(駆け寄る舞太郎)いちか……

音楽 高まる

舞太郎 しっかりするんだ、いちか。
いちか もう、私、ダメみたい
舞太郎 そんな、そんなことないよ。
いちか (首を振る)ううん、自分でわかるの。ああ、もうお別れなんだなって。
舞太郎 助けてください!助けて下さい!誰か!
いちか 最後に舞太郎に、死ぬ前に、舞太郎に伝えたいことがある。

音楽 FO

いちか すき。(死ぬ)
舞太郎 ……………いちか。いちか……!!!(絶叫)

音楽 CI

照明

友香 ははははははは
舞太郎 だ、だ、誰だお前は。
友香 見ての通り、俺様は悪魔だ。
舞太郎 あ・く・ま??

『#あくま??』

友香 そうだ。その女の魂はもう我々のものだ。
舞太郎 なに?!!?
友香 ははは、もう手遅れだ。あきらめるんだな
舞太郎 くっソー
友香 ごめん、止めていい?

音楽 CO

照明

『#放課後の教室』

舞 なになに
友香 無理。
舞 何が。

友香 舞 これ、もう全然無理。イタすぎて言葉にならん。
いいと思ったんやけど。ねえ。

一花 舞 あーうん。
友香 舞 ってかさ、何これ？何をどうしたらこんなん思いつくん。
友香 舞 ネット。

友香 舞 ネット？

(見せる)

友香 舞 「キョクキョクする恋の告白100のシーン」

友香 舞 でそれをこう、うまく断片的に。でもでも、オリジナルのところもある。友香のそこは、そこだけは、オリジナル。

友香 舞 それが特に気になったわ。私、何？

友香 舞 悪魔①

友香 舞 ①？

友香 舞 ①。

友香 舞 なんで①

友香 舞 ⑤までいる。この後、天使①〜⑤とバトルがするから。

友香 舞 ……………

友香 舞 で、天使側が勝って、無事に一花は天国へ旅立つ、という。

友香 舞 死んだらだめやん、主人公。ってか(一花を指さす)話してて急に死ぬし。なんもしたらんのにいきなり。

友香 舞 確かに。

友香 舞 確かに、じゃないよ。ボツ。

友香 舞 ……………やっぱり？

友香 舞 そりゃそうやろ。私これやりたくないもん。こんなんやったら黒歴史すぎるやろ。書き直しー

友香 舞 ええー！ ここまで書くの結構たいへんやったのに。

友香 舞 お疲れ様です。

友香 舞 ひとごとー！

友香 舞 あの、ちょっと、私、いい？ 先生に職員室呼ばれてて。

友香 舞 もちろん。

友香 舞 すぐ戻ってくる。

友香 舞 あーい。

一花、去る。教室には二人。

友香 舞 そういえばさ、…………なぜに？
友香 舞 になが。

友香 舞 仲良かったっけ、塩見さん。

友香 舞 いや。でも、なんか、演劇！って感じせん？

友香 舞 せん。全然せん。

友香 舞 そっかなあ

友香 舞 でも、手伝ってくれるっていうのはすごい。

友香 舞 そ。一花ちゃんは、すごい良い子だよ。

友香 舞 あんなにはっちゃける子だっけ知らなかったし。

友香 舞 ねー

友香 舞 あんなイタい台詞しゃべって。

友香 舞 ……

友香 舞 あんなに必死に死んでくれて。

友香 舞 ……

友香 舞 絵も描けるんやろ？

友香 舞 中学んときは美術部だった、とか。

友香 舞 なんでもできるやん。

友香 舞 しらんかったよね。あんな良い子なんて。

友香 舞 うん。

舞 クラス同じでも、全然知らん子とかいるもんね。この前、クラス演劇の分担作ってたけど、全然顔とか思い浮かばなかったもん、正直。
友香 それ
うち、ずっと席前のほうやけん、なんか後ろのほう。出席番号最後の方の人とか、特に。

舞、周りを見渡す。

舞 全然知らん、同じクラスの人のな。何が好きで、音楽は何を聴いてて、日曜日には何してるのか、とか。全然しらん。

友香 まー仕方ないんやない、このご時世。

舞 だけんさ、そういう意味でも、みんなてクラス演劇やってさ、みんなの輪(手でも)、作っていききたいやん。
友香 輪？

舞 そう、輪。友達の友達は、皆友達だ、世界広げよう、友達の輪。

友香 ……のためには、これ、どうにかせんと。

舞 まーねー キュンキュンする話かー

友香 頑張ってるねー

美穂来る

美穂 ……

舞 え？、ああ。

美穂 そこ、私。荷物。

舞 ああーごめん。

美穂 いや、別に。

美穂、荷物をとって帰ろうとする。

舞 勉強しとったん？横山さん。

美穂 テスト前やけん。図書館。……忘れ物思い出して。

舞 テスト前かー

友香 来週でもうー週間前。

舞 やばー！ こんなんせんで、勉強にとりかからんと、／そろそろ

美穂 あの、……もうやめればよくない？

舞 え？

美穂 演劇。

舞 ……どういうこと？

美穂 だって、まだできとらんやろ。なら、もう間に合わんかもしれんし、

舞 いや、それは私が

美穂 今、やっぱりやめようって言っても、誰も文句いわんよ。やりたい人、そんなおらんし。みんな、そんな大変なことやりたくないやろし。

一花、帰ってくる。

美穂 だけん、私は、そんな無理せんでもいいと思う。

舞 ……

美穂 あと台本も。秋の海岸って、誰もいかんやろし、ってか悪魔って。意味分からんし。

友香 え？

何

美穂 見てたんだ、これ。どこから？

美穂 ……

美穂、去ろうとする。

舞 横山さん！

美穂 (立ち止まって)何

舞 あの、実は、たっつのお願いです、実は、横山さんも出てもらいたいと思ってます、演劇。

美穂 は？私？私が演劇？

舞 はい。横山さんには、もうぴったりだと思って。悪魔。悪魔③。えーっこの(台本)バトルシーンから登場して
美穂 いやいやいや、絶対せんし。死んでもせん。

舞 ああーじゃあ、⑤にする。⑤はほら、ボスだから。悪魔界のボスで、ラスボスだから。えーっぴったりー
美穂 馬鹿にしとるやろ。

舞 しとらんよ！

美穂 絶対せんから、演劇とか。じゃ

美穂去る

一花 あの

友香 ……気にしないでいい。中にはそういう人もいるやろ。

舞 うん。……………

間

舞 ……でも、やりたくない人がいるってのは、ホントだろうね。面倒くさいもん、だつて。

間

舞 でも……………馬鹿みたいかもしれんけど、……………うちはやりたいなって思う。みんなで、なんか一つのお話をつくる
的な。

間

一花 と言いつつ、確かに台本できとらんけん、そんな大きな顔もできんけど……………

友香 あの、……………台本のことなんやけど。

一花 ん？

一花 じつは、私もちょっと考えてみたっていうか、……………書いてみたんだ、台本。

音楽「OVERDOSE」(なとり)

照明

『#一花の台本』

一花、傘を取り出す。一花、舞う。

そこに傘をもったひかりがやってくる。

二人で舞う。

ひらひらと花びらが舞う。

台本を持った高校生たちがやってくる。

一花 って感じですよ。

『#10月 放課後の教室』

照明

美穂は、マスクをつけ、座席に座っている。

そして、以下の会話は、明らかに通常より早く行われる。

『#ただいま 1・5倍速で上演しています』

舞 ええー！すごいやん、一花ちゃん！

ひかり すごいー！ えー！ 本当に？

友香 もうなんか全然レベルが違うやん。

舞 どう、これ？

葵 すごい！と思うー！

幸子 めっちゃいいー！

一花 全然自信ないけど。

舞 こんなので、どうやって思いつくん。ねえ。

ひかり うちのドキドキが止まらない。

友香 題名は何で「ツキノシズク」？

一花 最後に別れてしまう二人の涙のイメージで、雨が降ってて（と傘を見せる）

葵 あーそこに繋がってるんだ。

一花 うん

ひかり 別れるん、うちら二人。

一花 の方が、悲劇の方がきゅんきゅんするかなって思ってた。

ひかり たしかにー！！ そんな人生うまくいかんもんね。

舞 それー！ なかなかうまくいかん。

幸子 切ない方がいいよね、こういうの。

一花 かなーと思ってる。

舞 そっちは進んどう？ 大道具とか。

幸子 来週から背景作り始めよーっていつてる。

友香 始めるって、もう動いてるの？

幸子 もちろん。一花ちゃんのデッサン見る？

ひかり みたいみたいー！！

幸子 これ。

幸子、スマホを差し出す。みんなのぞき込む。

一同 おおー！

ひかり これ、自分で書いた描いたん？

一花 うん。

ひかり やっぱすごいー

友香 さすが元美術部。（舞に）見てみて、すごいくない？？

舞 ……うん。すごいねー！ こんなの思いつかん、うちは。

一花 もとの参考にした絵はあるけど。構図とか、そういうのは。月をバックにして、なんか儂くも力強い感じに。

友香 いや、もう、言葉にならない。

ひかり 超いい。最高。天才。美人。かわいい。超かわいい。

一花 馬鹿にしとる（笑）？

ひかり していないしてない。一花ちゃん、だーい好き（と抱きつく）

舞 進んどうるねー！クラス演劇。順調順調。

と、そこへ、担任（山口聡子）。盛大な拍手。

山口 うんー！先生もそう思う、塩見さんー！（拍手）

ひかり 聡子先生おったん。

山口 おったよ。ってかちゃんといつもおるから（と隅を指す）。先生やけん。

ひかり あーはい。

友香 全然気づかんかった。

山口 ちなみに、クラス演劇、私は何でてるの？

ひかり もちろん。先生は悪役。二人を引き離そうとする家の人。

山口 えええー！悪役？？（と大げさなりアクション）

一花 いや、先生が良かったら、で、／絶対では

山口 いい。超いい。

友香 いいんだ。

山口 そういうのやりたかったの、私。主人公をいじめる役。ということであと3週間しかないけど、ここはみんな

頑張って！みんな でクラス演劇。団結。友情。東山南女子 一年B組 クラス演劇 頑張っていきまっしょ

ひかり い！

ひかり みんな頑張ろー！ー！ー！

ストップモーション

舞 って、ひかりが、クラス演劇頑張ってこうー！って言って、友香も、周りのクラスメートもうなずいている。

舞 10月3日 月曜日。天気は 快晴。 東南祭まで、あと一カ月。

舞 テストも終わり、みんな文化祭モード。そりゃそうだ。一年のうちで一番盛り上がる行事だから、東南祭。

舞 みんなの真ん中に立った一花ちゃんは、ニコニコ笑っている。

全員去って行く。

一花、少し立ち止まり、出て行く。

舞 クラス演劇、順調順調。ウチがしたことは、……あんなないけど、まーでも、順調順調。……

舞、椅子に座り、大きなため息。

と、まだ教室に美穂がいることに気づく。

舞 え、あ。

美穂 ……

舞 あの

美穂、立ち上がり、去ろうとする。

舞 あの

美穂 何

舞 ……えー 進んでいるねー、クラス演劇。

美穂 ……あーね。

舞 頑張らなくちゃいけないね。クラスみんなで、協力して。

美穂 クラス？

舞 このクラスで。みんなで。うん。頑張っていきー

美穂 ……じゃ。

舞 あーバイバイ!!

舞、明るく手を振る。

美穂、立ち上がり去ろうとするが、途中で止まる。

美穂 ……これでいいんだ。

舞 ……何が

美穂 台本、書いてたんやない？

舞 ……まだ出来とらんけん。

美穂 ……あ、そ。

美穂、去る。

舞 ……いいに決まってるやん、それは。だってさ、一花ちゃんの台本のほうがいいもん。うちと違って。一花ちゃんの台本は、

照明

カラオケボックス

座っている一花。

タンバリンを持っているひかり

ひかり 一花の台本、さいこー(タンバリンを振る)

一花 ありがと。

ひかり いやー助かったよ。正直どうなるん？って思ったもん。

一花 まだもう少しなんやけどね。

ひかり ここまで来たら、もう出来たも同様。頼りになるなー一花ちゃんは。

一花 そんなことないよ、私は

ひかり そんなことあるよお!

一花 そう？

ひかり 台本も背景も、一花さまさまよ。おらんかったらどうなってたことか。

一花 やりたいようにやらせてもらっただけやけどね。

ひかり だけんよ。そこがすごいって

一花 かな

ひかり だよ。舞とは全然違うわ。さーてえーと次の曲はー

舞、廊下において、入るタイミングを逸する。

ひかり ん？

一花 ……舞ちゃんも

ひかり ん？

一花 ……舞ちゃんもいろいろ頑張ってくれとるけん、その

ひかり ……そりゃ自分で言い出したけんね

一花 だけん、

ひかり でも最後にはうちらがやってるやん。基本、全部。

一花 ……

ひかり 頑張ったって、できないものはできん。できん人はできん。そげん思わん？

一花 ……

ひかり ニコニコして、みんなでクラス演劇頑張ろーって前にたって言ってもさ舞は全然。ってかさ、舞ってさ

舞、部屋に入る。

舞 たいまいー トイレから戻ってきました！ー ってええー 歌ってないー 何してんのー二人で。

一花 あ、いや、……………うん。

ひかり 曲何にしようかなって。

舞 そっかそっか。声聞こえないから、(マイクをとる)「何してんのかなーって思った。」

ひかり あと、クラス演劇の話とか。

舞 「クラス演劇ねー いやーなんか、一花ちゃんに助けられています」

ひかり ホント、それ。

舞 うちらだけじゃ、絶対無理やったもん。

ひかり それ！ホントだよ、舞。

舞 ごめんごめん(笑)ありがと、一花ちゃん。

ひかり ありがと、一花ちゃん。

一花 ……うん。

舞 よし、歌うか。瀬藤舞、歌っていいでしょうか。今歌いたい気分です！

ひかり いいよー

舞 よっしや、歌いまーす。 えー あー(と悩み)、えーー じゃ、これ。

音楽「パツと咲いて散って灰に」(Creepy Nuts)

ひかり、舞からマイクを取って去る。

一花、立ち去ろうとするが、再度振り返る。

一花、去る。

『つてことで #クラス演劇』

『すべてが順調』

『絵も 音楽も すべて順調』

『でも複雑な 私感情』

『……………東南祭まで あと一ヶ月』

舞、大きくため息。

凜、やってくる。

照明

部屋かたづいとる……………

……

………こんこん、瀬藤凜、入りまーす。花男返しまーす。

……

凜、漫画を返し、舞の側に座る。

舞 おおー おったん

舞 ああーうん。漫画返しとったけん、花男。

舞 あーはいはい。

凜、じっと舞を見つめる。

舞 何。

舞 なんかあった？

舞 別に。

舞 隠さんでいいやん。

舞 隠しとらん。ってか、別になんもないし

舞 凍 舞 凍 舞 凍
そ？
そ。
……ならいいけど。あと、お母さん、今日もお仕事だつて。なんか忙しくなってきたらしくて。最近新規感染者も増えとるし。
そっか。
ご飯も自分たちでよろしくって言った。
分かった。あとで準備するね。
ありがと。……じゃ。

凍、出て行くこうとするが、途中で止まる。

舞 凍 舞 凍 舞 凍
そういえばさ、台本出来たん？
ん？
台本。文化祭の。お姉ちゃんが書いてるんやろ。
あー
出来たら見せてもらえるってやつ。どう？出来た？

間

舞 凍 舞 凍 舞 凍
……全然。まだまだ。
えーもう文化祭近いんじゃない。
間に合わせるから。
そっか。頑張つてね、お姉ちゃん。じゃ。

間

舞 凍 舞 凍 舞 凍
……あのさ
ん？
……秋やね。

間

舞 凍 舞 凍 舞 凍 舞 凍
……
急に寒くなったね。朝晩。
何いきなり。
いや、秋だなーって思って、今朝。この前まで、夏で、蝉が鳴いてて、全てが太陽の下でって、そんな季節だったのに、いつの間にか秋になったなあって
……
緑だった葉っぱもすっかり色が変わって、儂く散っていつて。……こんな風に、いつの間にか季節は変わっていくんだなって。

間

舞 凍 舞 凍
お姉ちゃん
何

凍、舞の横に座り、手をぎゅっと握る。

舞 凍 舞 凍 舞 凍
……
何、いきなり。
……

舞 凍
何よ。
……

間

舞 凍
……

間
凍、立ち上がる

舞 凍
今日は、私も手伝う、ご飯。
ありがと。
じゃ。

凍、出て行く。
音楽 高まる
照明

『すべてが順調』
『絵も 音楽も すべて快調』
『でも複雑な 私の感情』

舞はぎゅっと台本を握りしめる。

舞 凍
……

『東南祭まで あと一週間』
『複雑な気持ちの私』
『そして告げられる #衝撃のはなし』

音楽CO

朝のHR。

照明

舞台上には舞・一花・友香・葵・美穂。
みんなマスクをしてる。
中央に担任。

ひかり どういうこと？意味わかんないって、それ。

山口 だから、やっぱりまた、流行ってきいていつ緊急事態宣言出るか分からない状況になってきたから、今回は厳しいだろうって。

ひかり でも、ここまでみんなやってきたのに

山口 文化祭はあるんよ。そこは先生たちも考えとるんよ。全部中止ってはなっていないやろ。

ひかり そうやけど……

一花 もう変わらないんですか、お客さんいれちゃだめって。

山口 この教室で、この距離でって、密でしょ。

一花 でも、せっかくここまで作ってきたんです。

山口 だけんよ。先生たちもそう思ってたの話。中止にすべきだって、意見もあつたんだから。

一花 でも……

山口 ここでクラスター出すわけにはいかないから。世間の目ってあるから。だから、クラス演劇はやっていいけど、無観客。これが昨日の職員会議で決まりました。

一花 そんな、急に言われても。

山口 急な話もなにも、そういう約束だったでしょ。途中でいろいろ変わるかもしれないって。……だから、残念だけど、我慢しなくちゃいけないこともある。だって、今はそういう時だから。

ひかり ……

山口 ということで、今日の連絡は以上です。じゃあ、みんな今日も一日勉強がんばっていきましょい！ 号令お願いします。

起立 気をつけ 礼
担任去る。

ひかり もうさ、本当によくないって思わん？患者増えるたびに緊急事態宣言、自粛自粛って。

友香 学校やけんやない？それは。

ひかり そうかもしれないけどさ。無観客って。

友香 体育館ステージのライブは？

葵 もちろん中止。

友香 練習してたのに。

葵 ……まあ。

舞 ステージ系は全て中止。で、作ったものとかを展示とか。

間。

ひかり ……そんなん、東南祭じゃない

間

ひかり、一花の台本を手取る。

ひかり 作・塩見一花 「ツキノシズク」

ひかり、みんなを見る。

ひかり ……やろう。

友香 え？

ひかり やろう、クラス演劇。

友香 するの？ホントに？

ひかり うん。やりたくないの？友香は。

友香 やりたいよ、そりゃ。ここまで来て、あと一週間なんだから。でも

ひかり でも？

友香 誰にも見られてないのに、演劇って、それ演劇？

ひかり ……じゃあ、何

友香 え？

ひかり うちがしてること何？

友香 それは……

ひかり だけん、それ確かめんと。確かめて、握りしめて、それは、友香が言うように演劇じゃないかもしれんけど、あ

あ、うちらがやってきたことは、うちらがしたかったことはこういうことだったんだなーって。そう思いたいんよ。

友香 ……

ひかり だから、やりたい。うちは、絶対。……一花は？

一花 もちろんやりたい。

ひかり うん。

一花 「ツキノシズク」うちが書いた台本だから。クラスのみんなが協力してくれて、絵も音楽ももう少してとこま

で来たんだから。だからうちも、……誰も見ていなくても、やりたい。

ひかり だってよ、友香。

友香 ……はいはい。

ひかり 舞、……舞はどう思う。

ひかり、舞の前に立つ。

舞 私は

美穂、ゆっくりと振り返る。

舞 ……私もやりたい、クラス演劇。

美穂 ……

舞 ひかりと、一花と、みんなと、演劇やりたい。

ひかり ありがと。しゃあー、あと一週間頑張るぞ！

友香 でも、やる、でいいけど、正直ちょっとやばいよね。でしょ、ひかり。

ひかり はい。まだ台詞全然でーす。そんなときは一花、よろしく。

一花 ええー任せられても(笑)

「いやいや、大丈夫だから」などなど

友香 音楽は全部決まったん？

葵 もちろん。ライブない分、こっちで頑張ろうと思って。せっかくやるならさ。

友香 気合いはいつてるね。

葵 おお。(と、どんな風な音楽をするか語り出す)

舞、舞台の中央に立つ。

舞 ということで、はいー みんなちゅうもーく。えー いろいろありましたクラス演劇「ツキノシズク」ですが、先

生の、学校の力に負けず、上演することになりました。

拍手

舞 東山南女子一年B組 ここからまたスタートです。あと一週間。クラス演劇、団結・友情。私たちの演劇は、青春は、誰にも渡さないぞー

舞 東南祭まであと一週間。一週間なんてあっという間だ。寝て起きて寝て起きて、日常の中にすぐ埋もれて隠れてしまう、そんな短い時間。

皆が去って行く。

舞 でも、私たちにとては、この一週間はきっと大切な一週間になるに違いない。うちは、そう思っている。そう信じて歩いていく。

舞 いろいろあった東南祭、クラス演劇。紆余曲折を経て、いよいよ最終章に入ります。あと一週間。あと少し。頑張らなくちゃね、うち。

美穂、やってくる。

舞の前に立つ。

美穂 マジ？

音楽

マイクを持っている美穂

舞 ……どういうこと

美穂 「それ、どうなんだろうって 思うわ。やっぱり。」

舞 ……何が。

美穂 「正直さ、もう終わっていいって思ったよ、私も わたしも。」

舞 ……

照明少しずつ変わっていく。

美穂 「だって、仕方ないじゃん。学校がそう言ってるんだし、言い訳もできるし、周りも同情してくれるだろうし。」

美穂 舞 「全部きれいにおさまって 丸くおさまって、 何もかも。だから、もうさ、そんな無理しなくてよくない？」

舞 無理とかしとらんよ。

美穂 「しとるやん、台本、せっかく書いたのに、結局使われなくて、でも演劇したいって意味分からんやん、それ。」

美穂の言葉は、音楽にのって、ラップになる。

美穂 クラス演劇 みんな演劇

演劇やって みんな感激ーって

前向きな言葉 重ねた日々

押し隠してきた 心の扉

紡ぎ続けた お前の言葉

完成夢見た お前の台本

大きな歓声 浴びることなく

秋の訪れ はかなく散った

一生懸命考えて、書いて
みんなのため、一生懸命書いたのに

結局使われないままで。

誰からも認められないままで。

みんな 分かるうとしらないのに

それなのにまだ、やるのっ。

もう無理しなくていいよ、舞。

舞のわたくし 全てを隠し

いじもニコニコ しているだけだし

流れるビートに ワードを乗せて

かくしたハートを ハードに刻め

ここぞおしまい それでよくないっ。

これでおしまい べっちゃんの舞っ。

舞

あの、横山さん。……………ありがとう。

美穂

いや、お礼とかじゃなくて、うちはさ、

でも、これが私だから……………うん。やりたいって思う、私。

舞、マイクを手に取る。

音楽

舞

ホントに私、これが、私。

ごめんごめんと 繰り返し返す

笑顔のお面を 決して外さず

それこそたぶん 私だから。

やっぱり私はダメだとか

傍目からダメだと言われているとか

そんなの全部分かってて

自分のスベック とうに分かってて

美穂が言う通り 意味なくて

所詮私は 道外れ

ここが限界 心の防波堤

ひとり泣きたい 夜もあって

それでも紡いだ私の言葉

結局目の目を 見ることもなく

折りたたまれて、ゴミ箱の中。

折りたたまれた 私の思いを
自分で閉じた 自分の言葉を
拾い上げて 皺をのびこして
アイロンかけて じっと見つめて
そっとひとりで ため息をじく

でも、

それを含めて私だから。

舞、周りを見る。

舞

周りに合わせて ニロニロわらって
一個の心 二個にわけて

あちこち気遣い 周りにあわせて
勘違い間違いないように振る舞い

座る私は 決められた格好

机教室 ニロニロは学校

出る杭打たれて 悔いるよりも
はなから持たない まっすぐな杭

すぐさま返す インスタのいいね
そのしるしこそが 友情の意味で

これが私だから

これが私たちだから。

だから、

これでいい いいと思っんです、私

スカートの裾をひらひらさせて
この浮き世を 舞い続けていく。

くだらなく見えるっ。

そうくだらない べつにまでも続く上り坂

ただまっすぐな my way

スロー回転 そんな人生

恥ずかしいことなんて一つもない。
恥ずかしいと思っんですが恥ずかしい。

括弧をつけて 保留せずに

かっこ悪いまま シャンプーしたい

一花の本

ホントの演劇

やりたいと思っ それが本心。

舞

ビートが終わる。

ほんとに演劇したいんです、みんなと。みんなで。

暗転

短い暗転の後 照明つく

平板な世界

舞台が片付けられ、誰もいなくなる。

長い沈黙が流れる。

と、舞が 自分の席に立つ。

パネルの向こう側。

光の当たらない いつも舞の席。

舞 ……………っていう。そんな話です。私が書いた台本。

照明

舞 自分でも結局、何が書きたかったのか、わかんなくなりました。ごめんなさい。最後ラップですし。

舞 いきなりラップかよって思いましたよね。私も思いました。変なの。どんな演劇だよ、これ。……………

周りを見渡す。

舞 私、文化祭で、クラス演劇したいなって思ったんです。だから、その台本を考えました。友情ものの台本。

舞 演劇やろう！って言って 挫折したり コロナ禍なんて先生から中止！って言われるけど 頑張ってやる！！みたいな そんなありきたりな青春ストーリー。この頭の中にある、ストーリー。

舞 やりたいなって思ったんです。……こんな光のあたらない私が、教室の一番うしろにいる私が。

間

舞 でも、やっぱり無理。私には無理だと思います。……こんなの、絶対無理です。

間 だって、私は やっぱりこの台本みたいには、手を挙げて、声を上げることなんてできないから。……だから、ずっと私は……………

一花 やってくる。

一花 ……あの。

間

一花 舞 あの、えーっと。私、塩見一花っていうんだけど。

舞 あ、はい。……知ってます。

一花 舞 同じクラスだからね、まーそっか。えー一花っていいです。よろしく。
舞 はい。

一花 うん、……………で、聞いてた？さっきの話。東南祭。

舞 あ、はい。

一花 うん。……でき、私、いや、確かにフォトスポットもいいけど、せっかくならさ、ようやく文化祭できるんだからさ、……みんな、クラスのみんな、でなんかしたいなーって思ってた。

舞 ……

一花 だから、ボツになったけど、クラス演劇、今動いてるんだ。

舞 え？するんですか？ ……演劇。

一花 うん。

舞 ……そうなんですわね。

一花 うん。まだ何人かだけど。……高校生になって初めての文化祭、せっかくだからさ。

舞 ……

一花 で、で、本題なんだけど、……舞ちゃん、一緒にしない？

間

舞 え？

一花 そ。そして、舞ちゃんに出て欲しい。

長い間

舞 あの、私、なんで

一花 いや、その、特に理由はないんだけど、なんか

間

一花 一緒にしたいな、って。……手伝って欲しいなあと。

間

一花 おんなじクラスにいるけど、全然しらないから、まだみんな。半年間おんなじクラスにいるのに。だから、みんな、で一つのことをつくることで仲良くなれたらって、私。

間

一花 だから、……そんなところにいないでさ。そんな遠くにいないでさ、……

間

舞 私は、自信がないです、そんなの。

一花 ……自信なんてみんなないよ、全然。

間

一花 でも、やる前から自信ない、不安だ、ってても、何のいいこともないな、って最近思う。どうなるかわからないこと、わからないことなら、あれこれ考えても仕方がないし、えいや！って覚悟決めてやるしかない、って思う。

一花、舞を見上げる。

舞、下をむく。

一花 だから……だからさ、

音楽「JAM」(THE YELLOW MONKEY)

一花、舞のもとに

机を倒しながら進む。

一花 そりゃさ、不安に思うだろうなって思うし、ってかなんなら私も不安だし。もー基本不安だらけ。でも、たぶんそれは、あれ。シャンプー。シャンプーするのと一緒。

一花 夜一人でお風呂入って。で、シャンプーしてて、泡々が目に入りそうになって、こうぎゅっと目をつぶってしまふ時。

一花 で、その時に、目つぶってると後ろにさっう、このへん？なんか誰かがいるような感じがして。

一花 でも、髪洗い終わって、急いでシャワーの蛇口ひねって、泡々を流して、で、怖いけど、全然まだ怖いんだけど、えいやって目を開けると、そこには結局誰もいない。いるはずなんてない。誰もいない。

一花 不安ってつまりそんなもので、目をつぶって怖いなって思っていると、ホントに怖くなるって、うん、そういう。えいやって目を開けると、泡々みたいにきれいさっぱり消えてなくなる、そういうもの。

一花 …………… だから、一緒にやろ、一緒に。

一花、遠くから そっと手を差し出す。

舞は

うつむいていた舞は、顔を上げ

ゆっくりと自分の席を離れ、一花のもとへ。

ゆっくりと歩みを進める、

ここから始まる自分のステージへ。

音楽高まって

終わり。

□参考：『平家物語』巻一「祇王」